

主催：日本ソルフェージュ研究協議会

第12回 研究発表会

若手研究者の発表の場として、また、ユニークな研究の発表の場として日ソル研がお贈りする研究発表。今回、土屋氏は幼児教育番組におけるアイキャッチ、倉藤氏はソルフェージュ教育における発声問題という、ユニークな研究についての成果発表をされます。幼児の興味をいかに惹きつけるかのキーポイントであるアイキャッチ、発声が果たしてソルフェージュにどのような影響を与えるのか。興味は尽きません。9月13日のシンポジウムに続き、2回目となるWeb配信にご期待ください。

日本ソルフェージュ研究協議会会長 渡辺健二

収録：東京音楽大学中日黒・代官山キャンパス

Web配信期間：

2020年11月13日(金)20:00~12月12日(土)20:00まで(1ヶ月)



土屋 真仁 Masahito TSUCHIYA

東京音楽大学、作曲「映画・放送音楽コース」卒業。作曲を三枝成彰、小六禮次郎、後藤加寿子、藤原豊、堀井勝美、故服部克久、故羽田健太郎、各氏に師事。シンセサイザー・プログラミングを難波弘之、林秀幸各氏に師事。卒業後、作曲家・服部克久氏のスタジオレコーディング・アテンドを経て、作曲家・三枝成彰氏の作曲アシスタント、2002年より東京音楽大学、作曲「映画・放送音楽コース」において助手、2010年より講師を勤める。様々な楽曲提供(映画主題歌、挿入歌、劇判など)のほか、オーケストレーションアレンジ、バンドやアーティストの編曲など、活動は多岐に渡る。

が、オーケストレーションアレンジ、バンドやアーティストの編曲など、活動は多岐に渡る。

◆幼児教育番組における「アイキャッチ」

～音楽的なアプローチから～

幼児教育番組に提供する音楽は、幼児の意識を向かせることを第一に考えなければならない。対象である幼児の意識を向かせるためには、幼児の興味を引き出す音楽作りをすることが必須であり、その音楽作りには「アイキャッチ」の手法が重要であると考えられる。「アイキャッチ」の手法で引き出すことのできた幼児の「興味」を「持続した意識」へとつなげ、さらには音楽に対して「能動的な参加」へと導くための音楽的なアプローチの可能性を、幼児教育番組で実際に使用している楽曲を例に出し、番組に関わっている立場から検証する。



倉藤 理大 Rioo KURATOU

静岡県富士市出身。東京芸術大学音楽学部音楽科を経て、東京音楽大学大学院音楽研究科音楽専攻を修了。声楽を原田茂生、水野賢司、菅有実子の各氏、指揮を野口芳久氏、ピアノを広瀬宣行氏、音楽研究・論文執筆を村田千尋氏に師事。これまで数多くのオペラや演奏会に出演。特にドイツ歌曲の演奏と研究に力を注いでいる。声楽だけでなく、指揮、演出の活動も行っている。現在、常葉大学保育学部、静岡県立富士高等学校、沼津工業高等専門学校非常勤講師。

◆視唱指導における発声の問題について

視唱課題を指導する際、音程が悪いという問題の中にも、2つの種類がある。その中でも、発声方法に起因する音程の不良について、声楽家の目線からアプローチする。日本人の気質や発声の特徴、日本における発声教育の現状が、視唱教育にどう影響するのか、また、声楽家でない先生方が、指導される際にどのような点に注意して指導すると良いのかなど、視唱教育の現場で起こりうる様々な発声の問題点を指摘し、その対処法を提案する。

視聴は以下の会員ログインのURL もしくは右下のQRコードからお入りください。

<http://www.ni-sol-ken.com/member/auth.php>

会員ログイン用QRコード

◎問い合わせ先

日本ソルフェージュ研究協議会事務局

Tel. 090-5566-8567 (留守番電話)

E-mail : ni.sol.ken@gmail.com

<http://www.ni-sol-ken.com/index.html>

Homepage



facebook

